

1. 地震・台風の際に困ったこと／スムーズにできたこと

☆ 避難所

<地震>

- ・地活会長に連絡 避難所開設に学校へ。
- ・(避難所に) 来校者なし。夕方閉設し、自宅へ戻る。
- ・避難所開設時に自身が地域にいたため、開設はスムーズであった。
- ・小学校講堂付近は、MCA 無線の感度が悪く、通信しづらかった。
- ・避難所開設にあたっては、開設する側の地域団体(地域防災や振興町会、防犯等)が大阪市規定の避難所開設のルールや要綱・事項の知識が必要だと強く感じた。
- ・避難所にあたっては、避難者の方でテレビ等の要求があり一時的避難と長期的避難の区別とその知識の周知が必要だと強く感じた。
- ・避難所運営上で実質動ける防災リーダーや防犯委員等(ボランティア)の人数の確保が大変だと改めて感じた。
- ・区役所職員の対応については、初めて避難所の開設だった為に被害や災害(地震情報・台風の通過等)情報の取得ツールが避難所本部になく困った。
- ・大阪府北部地震発災については、家での処理に15分、会社での被害確認及びスタッフ等の安否確認、更に業務への支障についての確認と把握が40分前後とスムーズに進み地域防災リーダー隊役員(隊長含む)、地域防犯への連絡も午前9時40分過ぎには取れて自転車です2人1組で地域パトロールが実行出来た。更に巡回中には崩壊ぎみな家屋に安否確認の為、区役所・消防への通報もスムーズに行えた。
- ・当日午前11時過ぎに避難所開設の指示が大阪市長から出され、正午には小学校で避難所の開設が出来た。その際二日間の運営ローテも作成しスムーズだった。尚、4回の避難所開設に際し運営中はタブレット(10.5インチ)を持参していたので災害情報の取得とその進行状況の把握に役立った。
- ・午前8時10分ごろ、小学校教頭よりTELあり。急いで学校へ。保護者が迎えに来る子は帰宅させて出勤途中の避難者と残りの児童は、体育館等で保護をして、自主的に避難所を開設。

<台風>

- ・台風のため事前に地活役員と連長で相談し、落ち着くまで自宅待機。
- ・20時過ぎ閉設し、自宅へ戻る。
- ・当日は、カーペット敷きで、冷暖房完備の多目的教室を利用して避難所を開設した。
- ・板張りで、冷暖房のない講堂では様々な不都合が生じていたと思う。
- ・前日からの大型台風にも関わらず、区長の判断のまずさで、リーダー隊を危険な日に合わせながら(午前11時に区役所から連絡あり。)避難所を開始し、午後9時30分頃まで避難所に。

<共通>

- ・避難所開設等手伝いに行ったが、待機時間が長く、やるべきことがわからなかった。

☆ 通信と情報

<地震>

- ・家族の安全を LINE で確認
- ・スマホがカバンの中だったため、緊急地震速報も聞こえず、まず探すところからだった。
- ・情報や連絡をスマホでしたため、充電がすぐなくなった。
- ・勤務先の保育園の休園を保護者に知らせるのに電話が繋がらず大変だった。
- ・地域の役員や防災リーダーへの連絡は、LINE を利用したが、即時性が高く、返信も早かった。
- ・初動のパトロールを行うのにあたり、連絡手段についてはスマホ（ライン等）の有効性を強く感じた。又、台風 21 号（避難所開設時含む）に於いても情報伝達訓練の必要性を深く感じた。
- ・仕事で勤務地にいた。家族へ電話連絡するも繋がらず。時間が経ってからやっと確認することができた。
- ・通勤途中で南海高野線で堺東駅から三国ヶ丘駅に向かう途中で地震があった。車内では揺れ等は感じられなかったもので、車内放送で初めて知りました。車内では詳しい情報が入ってこないのでもどうすることもできなかった。通勤時間であったが、乗車している客は慌てるような状態ではなかった。困ったことは、待つべきか、電車から降りて徒歩で職場に行くかの判断がつかなかった。
- ・会社（1 階）に居たため、揺れの後外に出たが周りの建物の状況が変わりなく、TV をつけて驚いた。身内の安全確認はしたが、近隣の安全確認までできなかった。
- ・まだ出勤前で子どもたちも家にいたので、安否確認に困ることはなかった。
- ・携帯電話が使用できなくなり、すぐに家族の安全が確認できなかった。
- ・豊新小学校の避難所の開始から終了時刻の情報が混乱していたように思う。各地域の誰が正確な情報を持っているのか決める必要がある。
- ・電話は不通だったが、SNS を活用して各地の被害状況はある程度把握できたし、事後の対応についても予測できたと思う。
- ・携帯電話が繋がりにくくなり、家族の安否確認ができず困った。
- ・携帯電話の充電がなくなり、情報を得る手段がなく困った。
- ・公衆電話で両親への連絡がスムーズにできた。
- ・家族の安否確認は LINE や災害 Net などで確認がスムーズに取れた。
- ・地震は全く予期せぬとき、いわゆる心の準備も時間も場所も関係なく突然おきる。その日も朝の通勤途中で、まず自分自身の身の安全を図り、次に、家族親族の安否確認をするも連絡がなかなか取れずに困った。

<台風>

- ・停電や断水の情報は各機関ホームページ等から情報取得の上、LINE を利用して情報提供及び必要とする方への周知依頼を行った。
- ・LINE 非利用者に対する情報提供は課題である。
- ・家で待機していた。
- ・北部地震があったので、台風が去った後の従業員との安否確認。豊里、東淡路、大桐の事業所の状況確認は、円滑だった。
- ・天候情報を得ることで暴風対策などを事前に行うことができた。
- ・事前に電車等の計画運休が発表されたため仕事の段取り変更ができた。

〈共通〉

- ・行政の情報は、SNSで把握していたが、地域（連合等（間の、情報共有ができておらず個人という立場でしか対処できなかった。
- ・町会長でもあるが、自分の町会については、59世帯と小さい町会でもあり、各世帯への対応状況確認は、スムーズにできた。
- ・自分の地域の避難所開設情報などの取得手段を認識していないので、家にじっとしているしかなかった。
- ・何度目かの台風からは、町会の事前対応が早くなり避難開設情報も早くからわかった。
- ・大きな情報はラジオで知ったが、地域の情報を知ることができない。特に停電がいつ終わるのか。
- ・自身の職場と自宅が近いこともあり、自身の災害への対応はスムーズだった。遠方の祖母も含め、家族間のグループLINEや職場や地活協友達とも情報の共有ができて安全が早めに確認できた。
- ・家族の状況確認、ニュースで現状を知ることや、知人などメールで安否確認、近隣の状況を知ることがスムーズにできた。
- ・自宅周辺では、停電など長引いていなかったもので、特に大きな混乱はなかったが、同じ町会での被害（停電による断水など）を知ったのが翌日午後だった。困っておられる方もあったのに、緊急避難所開設の情報が入ってこなかったもので、自身も特に協力体制の動きなく、情報収集と伝達不足を感じたことは反省と大きな課題。

☆ 日常生活

〈地震〉

- ・非常食を食べようとしたが、緊張と不安で胃痛がして思ったように食べられなかった。水も。
- ・7時58分時点で起床してすぐの状態でグラッときてすぐに激しい揺れが襲ってきたが、このような大きな地震は、阪神大震災以来だったので、自分では何もすることができなかった。
- ・家の中で割れ物が多く、処理時対応（履物・タオル・軍手等の必要性）と電源の確認（オール電化）やドアの開閉等に時間がかかって、情報の確認（テレビ・スマホ等）を同時進行で行うのは独居方々（高齢者等）には大変困難であろう事を強く感じた。
- ・スーパーやコンビニなどで、水や食料品の確保が難しくなっていた。
- ・地震後、子どもの通っている小学校があったので登校させましたが帰ってくるまで不安に過ごした。
- ・地震について特に防災対策もしていなかったもので、朝の支度途中だったので慌ててしまった。被害はなかったもので、困ったことはあまりなかったが、スーパーでの食品の売り切れの早さには驚いた。
- ・災害はいつどこで発生するかわからない。6月18日の地震の場合は、自宅で家族がいたので声を掛け合って、「玄関のドアを開ける」「ガスや電気の元栓を閉める」「テーブルの下に隠れる」など、まだ冷静に対処することができた。
- ・子どもが登校する前に地震が起これエレベーターが止まっていたので階段で下に降りるように伝えて登校させ、自分自身も出勤。その後、学校が休校になったと友人からのメールで知り、学校へ迎えに行き、子どもを帰宅させ、再度仕事へ戻った。行ったり来たりしたのとエレベーターが翌日の日中まで止まっていた大変だった。
- ・自宅は本棚が倒れ、食器類が割れた程度。

- ・食器の破損が少しあっただけなので、片付けも比較的容易にできた。
- ・特に困ったことはなく、スムーズというよりは通常通りといった感じだった。
- ・保育事業を始めたばかりで、緊急時の対策等を決められていない部分が多く、慌てた。備蓄も当初はなかった。自宅の非常持ち出し品のチェック、買い足しをすぐできた。
- ・ペットボトルの水を確保できず（売り切れ）、電池の確保も困難だった。子どもを学校へ迎えに行く際、大渋滞にあった。
- ・電車等の交通機関が止まり仕事に支障がでて困った。

<台風>

- ・準備に関しては小学校の休校が早く決まったこともありスムーズにできた。
- ・自宅で待機していたが、激しくなる風雨に戸惑うばかりであった。事前に飛散防止対策を取っていたために大きな被害はなかったが、改めて、台風の恐ろしさを知った1日であった。
- ・今までの経験から、大した事はないと判断し通常どおりに仕事を行ったため、社員の安全を確保できなかった。
- ・時間的に備える時間の余裕があり、問題はなく、ただ家族には不要不急の外出は禁止させた。
- ・台風の前に、スーパーやコンビニの営業時間を確認しておかないと閉店してしまい買い物ができていない人がいた。
- ・台風21号で、備えの必要性を強く感じていたので、ベランダなどの物を移動したり、水や食料の買い出しを早めにすましたりして待機する方々が増えた。（私も含め）
- ・台風に向けて、排水溝の掃除や土嚢を準備した。
- ・停電が2日間ほど続いたが、カセットコンロやランタンなどがあったので、意外に困らなかった。季節によると思うが、停電より断水の方が困るだろうなと感じた。
- ・予想していた風力より強力な勢いに圧倒され、通り過ぎるのを待つのみだった。対策は考えつくもの全てに備えていたおかげで、被害はあまりなかった。ご近所での建築物の破損は気になった。
- ・台風に関しては初めての体験で非常に怖かった。事前の準備に電気ガス水道が止まったときを想定して、必要なものを買い揃えておいた。しかし、よそから飛んでくるもので、家の一部破損は避けられなかった。
- ・こんなにひどい暴風雨になるとは思わず、停電になるのも想定外でした。自宅は大丈夫だったが、訪問看護の仕事で訪問している家が停電し、電気で動いている医療機器が動かせず、大変だった。
- ・強風が3時間余りの長時間続いたのは、生まれて初めての体験。ベランダはガラスが広いので、とにかく必死でガラス戸を抑えていた。1人住まいなので即1人で対応した。
- ・普段から飲料水は多く保存していたのと、事前の準備をしていたので、特に困ったことはなかった。
- ・自宅の網戸が外れた。取り付けるのに時間がかかった。
- ・一番困ったことは、停電。冷蔵庫、テレビ、お風呂、固定電話、スマホなどが使用できなかった。
- ・台風21号の時は、水・ガス等を買っていたため問題なし。
- ・数日前から地震被害建物の雨漏り対策のシート張り等に追われ、当日早朝から商店街周辺及び公園、福祉会館周辺の暴風対策に追われた。
- ・会社の倉庫、車庫も被害を受け屋根が三分の一、暴風で飛ばされ停電のため電動シャッターが開けられず、車が出せないどころか仕事道具が出せなくて苦労した。
- ・停電で住まいのマンションは水道も出なくなり大変苦労した。

- ・ SNS の活用と移動手段を確保できていたが、長期の停電には困った。普段電気で動かしているシャッターなど、手動で動かせず、日中でも部屋が暗いまま(懐中電灯)で過ごした。
- ・ 停電があったため、日常生活に支障が生じた。
- ・ 瞬間であるものの停電が発生した。

<共通>

- ・ 大阪府北部地震・台風 21 号の発災後はスーパー、コンビニエンスストア等の小売販売所について食料品や水、乾電池等の確保が困難だった。

☆ 見回り

<地震>

- ・ 台風 21 号通過後の自転車でのパトロール巡回中にタイヤ等の破損(パンク以上のレベル)がひどかった。
- ・ 午前 9 時ごろから町会の安全を確認。井高野地域と各町会長、役員を見回り、12 時頃に帰宅。
- ・ 揺れが止まった時点で、ガラスや破損物を手早く片付けて近所の身体障がい者のお宅に声をかけたり、高齢の方のお宅に走った。
- ・ 管理している公園(淡路 4 公園)の清掃が終わった時に地震が発生した。一時避難者、帰宅困難者が予想されたため淡路 4 公園、淡路福祉会館の門を開けてから地域高齢者の安否確認、商店街内及びアーケードの被害状況の確認、点検に追われた。

<台風>

- ・ 夕方、地域巡回。(地活仲間 LINE で地域の被害状況の情報収集)
- ・ 小学校・地活長へ情報を伝える。
- ・ 他から飛んできた大型の物(トタンや壁?)をどうしていいかわからなかったが、班で協力しあいまとめた。
- ・ 風が静まった頃には町内を見て声かけもして歩いた。おおむね大丈夫。木が折れたり、旗が折れたりしていた。
- ・ 台風が過ぎてから近所の 1 人住まいの方に声掛けをした。
- ・ 被害はなかったなので、近隣の手伝いにまわった。

<共通>

- ・ 東淀川管内にある自己管理の不動産を見て回り、破損箇所を調べた。入居者からも、破損箇所を聞いた。